

## 新たに考える後継者問題解決法

北海道中標津農業高等学校 生産技術科 3年 長谷川 遥

中標津町の基幹産業、酪農。この産業で後継者不足が問題になっていることをご存知でしょうか。

私は、将来両親が経営している牧場を継ぎたいと考えています。酪農に誇りを持つ両親に憧れる私は、後継者不足という明るくない問題が残念でなりません。そこで、少しでもできることはないか、改善できないだろうかと思い、酪農後継者について考えてみました。

根室管内での農業従事者数は、平成2年には13,000人もいましたが、平成22年では7,800人となっており約40%も減少しています。みなさん、この現状を聞いて後継者不足の原因は何だと思いませんか？ 少子高齢化と答える人が多いのではないのでしょうか。確かに私もすぐ思いつくのはその答えです。実際にデータを見ても40歳未満の酪農家の減少、40～60歳の増加傾向が確認できました。しかし、私はそれだけではなく、酪農家の娘や息子が後を継がなくなってきた別の原因があると考えています。それは、継ぐという選択肢以外にも様々な職業への道があるということです。

私の姉は保育士になって食育を小さい子供たちに教えたいと決意し、札幌で勉強しています。自分の家でさえ、酪農家になりたいと思う人が私しかおらず、このような状況がたくさん酪農家で起きているのではないかと思います。

なぜ後を継がずに違う職業に就いてしまうのでしょうか？ 調べてみると、「将来に希望がない」「酪農が嫌い」という意見がとて多く、私は「酪農家の子供はみんな牛やこの仕事が好きだと思ったのに違うんだ」と悲しい気持ちになりました。酪農家の息子ですら、このようなイメージを持っているのですから世間一般的な酪農のイメージもあまり良くないのかもしれない。

そこで、後継者を増やすためには酪農関係者以外の方にも、もっと視点を置いた方がよいと考えました。どうしたらたくさんの人に酪農の魅力を知ってもらい、興味を持ってもらえるのか、私は高校に入ってからより深く考えるようになりました。2年生の時には、牛の魅力を自らが発信できないだろうかと思い立ち、ヒントを探しにオシダファームさんを訪ねにいきました。そこで押田さんから「百姓は百の仕事を持つので百の体験ができる」という話を聞き、とても心にグッときました。また、私は酪農のイメージを良くするためには牧場のガーデニングなど環境美化も大事だと考え、園芸の知識技術を学ぶため学校の園芸研究班に入りました。さらに5日間の酪農委託実習でお世話になった牧場は、環境整備に力を入れている農家さんで、たくさんの綺麗な花が家の周りに咲いていて、私が将来実現させたいような風景がありました。私は将来、長谷川牧場を綺麗にガーデニングしたら一般の人の目にも止まり、酪農家のイメージである、くさい、汚い、というイメージが少なくなり、こんな生活してみたいと思う人が出てくる

のではないかと夢見ています。

しかし、牧場の状況は家々で異なるので「そんな余裕や暇はない」という意見もあると思います。

そのような農家さんの気持ちはよくわかります。私が住んでいる長谷川牧場には、家と牛舎の間に縦2メートル横3メートルの花壇があり、「美しい景観のある酪農家を目指す」という夢への実現に少しでも近づくために、私はその花壇を実際にガーデニングしてみました。草むしりをして、土を耕す所から始めたのですが、やはり一人でやるととても疲れるし時間がかかりました。高校生の私ですら大変なのに、仕事を毎日されている酪農家の皆さんは、仕事や家事などやらなければならないことは多岐にわたるので、余裕がないというのも理解できます。

そこで、私はこのように様々な状況があるからこそ、青年部や女性部など仲間と協力することを大切にしていきたいです。計根別では、酪農の魅力をロールアートや花壇を使って表現するなど、町の色々なところで酪農の魅力を広めていく事業を進めています。中標津町内から計根別に来る道路には牧草ロールを利用したロールアートがあり、私は通るたびにじーっと見てしまいます。どのような経緯で始まったのか実際に作った計根別の青年部の方にお話を聞きました。話をお聞きするとロールアートは計根別から始まったそうです。20年ほど前に、消費拡大のために酪農地帯でしかできないPR方法はないかということでロールパックメッセージを始め今日にいたるそうです。この話を聞いて、これまで他の町で行っていることを参考にしてやっているとはばかり思っていたのでとても驚きました。そして、私と同じように酪農の未来を真剣に考えている青年部の方がいることをとても心強く感じました。

もっと計根別のロールアートのようなものが酪農の町のいたる所にあったらどうでしょうか。町や牧場、様々なところにきれいな花が咲いていたら皆さんはどう思うでしょうか。

私は、これからもたくさんの酪農家さんの景観を参考に、私らしい視点で、後継者問題解決に向けて考え取り組んでいきます。

7月下旬、私は海外酪農研修でニュージーランドに行きます。酪農が基幹産業である国に行き、6日間の酪農ホームステイでお世話になる牧場で、環境整備はどのようなところに気をつけているのか、地域ネットワークをどのように構築しているのか学んできたいです。また、後継者を増やすために何か取り組んでいることはあるのか聞きたいと思っています。

さらに高校卒業後、進学し大学で牛舎施設や家畜の糞尿処理、利用について研究したいと考えています。私が志望する大学の学部では、バイオガспラントや配電システムなど環境に配慮した牛舎施設があり、そこで家畜の糞尿処理、利用などについて研究できると知りました。酪農家さんでさえ気にするにおいや汚れを軽減できれば酪農への悪いイメージがより少なくなり、理想的な牧場に近づくのではないかと思います。だから、進学ししっかり学ぶ

ために、まず高校で糞尿のにおいや汚れなどの科学的基礎知識を深めていきたいです。

「牧場ってこんなに素敵な風景が沢山あるんだ」「酪農家になってみたい」と思う若い方が一人でも多くなることを信じ、少しずつでも自分でできることをこれからもやっていきます。

---